

めぐる 廻

回転・人やモノのめぐり合い

「読む、しまう、くつろぐ。真ん中に置きたい家具。」

デザインの特徴

垂直材を減らして斜め材を採用し、家具自体がまるで回転しているように表現した。視覚的に動きを感じさせ、単なる箱型の家具ではなく立体的な存在感を与えている。骨組みの重たさを軽減し、**本体が宙に浮いているような印象**で、視覚的にも軽やかな印象に。そして、どの方向から見ても美しく、空間のどこに置いても絵になる。斜めフレーム構造によって「**座る強度**」と「**収納の仕切り**」の両方を生み出している。

収納する

座る

読む

【座る】

本体の高さと安定性を活かして、スツールのように腰掛けることができる。読書中のちょっとした休憩にもぴったり。

【読む／書く】

上部はミニテーブルとしても機能し、膝にノートを広げたり、コーヒーを置いたりできる軽作業用のスペースになる。

【収納する】

4方向すべてからアクセス可能なつくりで、本やノート、小物を自由に収納・出し入れできる。正方形を十字に仕切ったデザインにより、本が自然と整列し、視認性も抜群。

【空間の中心に】

通常の家具のように壁に寄せず、空間の真ん中に置くことで“場”をつくることができる。読書コーナーや打ち合わせスペースに置けば、自然と人が集まる場所に。

きっかけ

この作品で、「本棚＝壁際に置くもの」という固定観念をくずしたいと考えた。部屋の真ん中に、やさしく佇む家具があったら——そんな思いから、この家具をつくった。いつも部屋の隅に追いやられがちな家具ではなく、空間の中心にあって、自然と人が集まりたくなるような、ぬくもりのある存在にしたいと考えた。そのため、この家具は「動き」と「存在感」を持ち、どこに置いても存在感を発揮する。見る角度によって印象が変わり、部屋の中央にあってもまるでオブジェのように機能する。



基本的な寸法(小)

最高高さ：450mm
天板の大きさ(奥行、最大幅)：360×360mm
雑誌20冊程度

基本的な寸法(大)

最高高さ：640mm
天板の大きさ(奥行、最大幅)：420×420mm
文庫本80～90冊

